

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190500744		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム日翔館2階		
所在地	札幌市厚別区厚別東4条2丁目1-1		
自己評価作成日	令和7年2月5日	評価結果市町村受理日	令和7年8月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0190500744-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR地下鉄新札幌駅から徒歩15分程度、周辺にはマンションや病院、工場が多くある中にグループホームがあります。3階建ての建物の1階には隣接する協力病院系列のディサービスが併設されています。その2階、3階がグループホームになります。併設するディサービスと合同避難訓練を実施しています。地域柄町内会組織がないですが運営推進会議にはディサービス、民生委員、地域包括支援センター、消防団員の方が参加してくださっています。季節に応じて職員が企画したレクのほか塗り絵や体操など入居者様にあわせ個別レクを行っています。入居者様のADLを維持するために、洗濯物量みや食器拭きなど家事手伝いも取り入れ残存機能を活かした取り組みを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道12号線に近い厚別東通に面した場所に建つ3階建て建物の2階と3階に「ふれあいの里 グループホーム日翔館」があり、1階の医療法人のデイサービスとは合同の避難訓練を開催している。隣接する協力医療機関より隔週の訪問診療と毎週看護師が訪問し健康を管理しているため、利用者にとって安心できる医療環境である。玄関からユニットへ入ると、広いリビングルームの奥に採光を取り入れる吹き抜けが見える。建物内は床暖房で暖かく適切な湿度が保たれている。中央の吹き抜け窓に面してソファやテレビが配置され、利用者は好みの場所で寛いでおり、回廊下の廊下では下肢筋力低下予防のための歩行訓練もできる。法人は道内多くの介護事業を展開しており、統一された書式やマニュアルがあり支援体制も整っている。また、eラーニングによる研修体制も職員個々の介護力の向上に役立てており、パソコンの介護ソフトに利用者の記録を保存することで個人情報も守られている。2名の調理専門職員が調理に専念しているため、職員が利用者と関われる時間も取れやすい。日頃の献立とは別に毎月のように誕生日や行事、季節折々のメニューや利用者のリクエストを取り入れて提供している。職員が利用者の暮らしを守り寄り添いながら、いつまでも希望を持って穏やかに暮らせるように支援をしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	複数の場所に掲示し、常に確認できるようにしている。	基本理念は玄関や共用空間、事務所に掲示している。管理者は職員と共に業務に携わり、利用者一人ひとりのニーズに合わせた支援が行われているかを確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民生児童委員、消防団員の方に参加をいただいております。	町内会のない地域のため直接的な交流の機会がないが、地域の商店を利用し利用者と一緒に買い物をかけたり、散歩で訪れる公園で子供たちと触れ合う機会がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様が家族や施設入居問い合わせが来た場合その方にあわせた相談に応じます。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた意見は改善点については至急対応できるように心がけています。	令和6年10月から毎月の会議に変更して開催している。民生委員、地域の消防団員、地域包括支援センター職員、家族数名の参加で開催し、議事録を関係者及び家族へ送付している。	会議で事業所の報告以外にも、災害訓練や外部評価結果、食事内容、感染症対策など多様なテーマも盛り込み、参加者からの意見を運営に反映することを期待したい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所内で抱えた問題で行政判断が必要な場合随時相談し事故等については所定書式にて報告しています。	オムツサービスや保護課の調査に協力をしている他、必要に応じて報告事項はメールや指定のフォームで提出するなど協力関係を築いている。厚別区のグループホーム連絡会が再開されるようになり、次回は管理者が参加を検討している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないように委員会、研修を行い身体拘束がないように心がけています身体拘束が必要になった場合はご家族様のご了承を得たうえで三原則に則り記録に残すようにしています。	身体拘束等の適正化のための指針を基に不適切ケア防止(身体拘束適正化・虐待防止)委員会と、これらに係る内部研修を定期開催している。今年度は5月に身体拘束と虐待について、11月に介護における尊厳の保持を学び、受講後に職員全員が研修報告を提出している。交通量が多いため玄関は施錠しているが外出を制限するものではない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起こらないように定期的な研修を行い日常的な取り組みの中で虐待を意識しながら介助を行えるように意見交換をしています。			

ふれあいの里グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状2階ユニットでは活用している方はいないが必要になった場合各職員が理解できるような体制を作っていく。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時には、重要事項説明書の説明を合わせて行い質問事項については納得のいくように説明をさせていただき、後日何か質問があれば説明させていただきます。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からのご意見ご要望等があった場合記録に残し各職員に共有し、改善が必要な場合は速やかに改善できるように心がけています。	利用者の様子は事業所ホームページ内のブログで発信している。家族へ電話で連絡した際に出された意見はパソコン内の家族意見と相談の項目に記録し職員で共有している。	家族との電話や面会、運営推進会議等の機会を通じて、意見や要望を気軽に出してもらえよう積極的につながりを持つなどし、運営や支援に反映させることに期待したい。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談のほか日常的に意見交換が出来るように心がけています。	日々の業務で職員意見を聞いており、職員の提案により物品の保管場所を検討した事で業務改善がされている。法人のeラーニングで学べる個別研修制度がある。職員の希望休や勤務日の調整をしており、働きやすい職場環境となっている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、計画作成担当者には年2回人事考課を実施しています。また昇給、ベースアップなどの給与水準の見直しなども行っています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己チェックシートによる課題発見、Eラーニングによる研修を行い、職場でのOJTへと繋げています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の管理者会議やなどに参加し情報交換、収集を行っています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の声を傾聴し、その方のニーズに沿ったケアの実践が出来るように努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にこれまでの生活歴を把握し、家族様の希望を伺った上で暫定プランを立て、1か月を目途にその内容を見直すようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内では家庭的な雰囲気の中で生活して頂けるように気を配っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からのご意見、ご要望を大切に改善が必要な場合は入居者様にとって快適な生活が出来るように見直しを行っていきます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様やご家族様が繋げていきたい関係、関係を切りたくないなどその意向に添うように協力していきます。	電話や手紙の支援で馴染みの関係を継続している。面会は利用者の居室でゆっくり過ごしてもらえよう支援をしている。家族と外出したり一時帰宅や法事に出かけた利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごされる時間も大切にしながら居室に籠らないように食事の時間以外におやつ時間など入居者様同士話せるように話題提供などをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて情報提供をおこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にまた本人に確認できない場合はご家族様に意向等確認しその人らしい生活を送れるように努めます。	日々の会話で意向を確認しているが会話が難しい場合は、家族からの情報や問いかけの反応、表情や動作で把握するようにしている。課題分析シートのその他欄に興味嗜好を追記している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式やご家族様、各関係機関に生活歴を確認し安心して生活できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態を把握し、残存機能を維持しながらできるだけ活動的な暮らしができるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様のニーズを重視し、課題分析繰り返しながら介護計画の作成に努めています。	担当の職員がモニタリングを行い、全職員で行う毎月のケアカンファレンスを経て評価し、家族や利用者者の意見を取り入れたケアプランを6か月ごとに作成している。特変や入院等があれば都度見直して、現状に即したプランに変更をしている。	モニタリングにおいて、目標達成状況が可視化できる記録の書き方になるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務前に介護記録、送りノートの確認することを心掛け入居者様の様子や状態の変化等を共有して勤務に入るようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様の声を大切にし、必要に応じてサービスの見直しを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会などと連携をして地域ボランティアなどの実情を把握し、行事や日常生活での活用 に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期訪問診療や看護師相談で健康状態把握に努め状況に変化があった時には連絡をとれるように関係を密にしています。	協力医療機関が隔週訪問し看護師も毎週健康チェックを行っている。必要に応じて歯科の訪問診療も受けている。他科受診は原則、家族対応であるが事業所で通院支援をする場合もある。投薬変更等は家族へ連絡をして情報を共有している。	

ふれあいの里グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の看護師相談の時に気になる点があれば相談、アドバイスをもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には入院前の生活の情報提供入院中は主治医からの治療説明の時に同席し退院後安心して生活できるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合についての指針の同意を得ています。施設、病院、ご家族様と連携し安心して終末期に向けた取り組みが出来るように心掛けています。	契約時に「ご利用者が重度化した場合の対応に係る指針」を説明し同意を得ている。食事や水分が自力で接種できなくなり重度化した場合は、医師を交えて相談し家族や本人の希望にそった移行支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や救急搬送がすぐできるように		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を行っている。年に1回1階のデイサービスと合同避難訓練を行っている。	業務継続計画に基づき今年度は10月19日に夜間想定火災避難訓練と同月29日に1階のデイサービスと合同で日中想定火災避難訓練を行い消防署へ届けている。	自然災害発生時における業務継続計画に基づいた訓練の実施と、災害時の円滑な受援体制づくりに期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるという気持ちを忘れずにその方の尊厳を尊重しながら対応しています。	法人の個別接遇研修を受けている職員もいる。気になる言葉が聞こえる時は管理者が説明をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者主導とならないように本人の希望が尊重されるような声掛けを行うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課がありますがその方の希望に沿った生活を送れるように配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に好きな服を選んでもらったり同じ服にならないように声掛けを行う男性には髭剃りをできるように声掛け物品の充電等を行う。		

ふれあいの里グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食後に食器拭きや、おぼん拭きをお願いしています。	日々食材が届き調理専門職員が献立を見ながら調理している。誕生日のケーキ、父の日にノンアルコールビールや刺身、夏祭りは手作りオードブルとかき氷など利用者の楽しめる内容になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を管理し摂取量が少な場合声掛けで促したり、好みのもを提供したり、栄養補助食品で補食したりしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、ご自身で出来ない場合は職員の介助で行います。歯科医師の助言を得て、計画に基づいたケアに努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた介助を行っています。過剰にならないように自立支援に努めています。	パソコンに全員の排泄状況を記録し、失敗の無いよう時間やしぐさを見ながら、タイミングを見極めトイレで排泄ができるよう支援をしている。排便困難な時は腹部マッサージを行っている。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服だけではなくいきめない方には腹部マッサージを行うなど快適に排便があるように心がけています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日の日課で入浴時間が決められおり大幅に時間を変更しての入浴は難しいですが希望があれば順番等調整し気持ちよく入浴できるように配慮します。	好みの湯温で職員との昔話を楽しみながら入浴をしている。足が上がらず湯船を跨げない場合や座位が保てず湯船に浸かれない場合も足浴しながらシャワー浴が出来るよう支援をしている。入浴後は水分補給としてスポーツドリンクを提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理のない生活をして頂くために、適宜休息をとれるようにしています。昼夜逆転しないように声かけし夜間も良眠できるよう配慮します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を毎回ファイリングし必要に応じて確認できるようにしています。薬の変更があった場合には情報を共有出来るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様の協力を得ながら、生活歴を把握しながら楽しく暮らせるようにしています。役割を持つことによって生きがいを見出せるようにしています。		

ふれあいの里グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬季は感染症等がある為外出機会が減りますが雪が解けてから近くの公園やご家族様に協力を得てご本人の行きたいところへ外出出来るようにお願いしています。	数名ずつに分けて春の桜や秋の紅葉にドライブで出かけている。個別にスーパーマーケットに買い物に出かけたり、事業所玄関前のベンチで景色を見ている。散歩では近隣の公園に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所では金銭の所持を基本的に行っていません必要な場合立替で対応します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば事務所の電話からかけてもらいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な空間になるように刺激や違和感を持つような現象を排除できるようにします。	厚別東通に面したダイニングスペースの大きな窓から人や車の往来が見渡せる。共有空間は床暖で回廊式の廊下は歩行訓練に最適である。トイレも4か所あり安心できる。エアコンで温湿度も管理されており快適に生活できる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファの位置や窓から外を眺められるように椅子を置いたりし空間を自由に使えるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際に新しいものを買って替えるのではなく使い慣れたなじみのものを持参して頂き、早く生活に慣れて落ち着いて過ごすことができるように家族様にお話しています。	床暖房で暖かな居室は予め照明器具・クローゼット・介護用ベッドが備えてある。馴染みの家具や小物を持ち込み自分のペースで安心して生活できるように職員が利用者のライフスタイルに合わせて歩きやすい動線を検討し配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を大切にし、その方の残存機能を活かした生活が出来るように心がけています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190500744		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム日翔館3階		
所在地	札幌市厚別区厚別東4条2丁目1-1		
自己評価作成日	令和7年2月5日	評価結果市町村受理日	令和7年8月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190500744-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR,地下鉄新札幌駅から徒歩15分程度、周辺にはマンションや病院,工場が多くある中にグループホームがあります。3階建ての建物の1階には隣接する協力病院系列のディサービスが併設されています。その2階,3階がグループホームになります。併設するディサービスと合同避難訓練を実施しています。地域柄町内会組織がないですが運営推進会議にはディサービス、民生委員、地域包括支援センター、消防団員の方が参加してくださっています。季節に応じて職員が企画したレクのほか塗り絵や体操など入居者様にあわせ個別レクを行っています。入居者様のADLを維持するために、洗濯物量みや食器拭きなど家事手伝いも取り入れ残存機能を活かした取り組みを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	複数の場所に掲示し、常に確認できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民生児童委員、消防団員の方に参加をいただいております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様が家族や施設入居問い合わせが来た場合その方にあわせた相談に応じます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた意見は改善点については至急対応できるように心がけています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所内で抱えた問題で行政判断が必要な場合随時相談し事故等については所定書式にて報告しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないように委員会、研修を行い身体拘束がないように心がけています身体拘束が必要になった場合はご家族様の了承を得たうえで三原則に則り記録に残すようにしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起こらないように定期的な研修を行い日常的な取り組みの中で虐待を意識しながら介助を行えるように意見交換をしています。		

ふれあいの里グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状2階ユニットでは活用している方はいないが必要になった場合各職員が理解できるような体制を作っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時には、重要事項説明書の説明を合わせて行い質問事項については納得のいくように説明をさせていただき、後日何か質問があれば説明させていただきます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からのご意見ご要望等があった場合記録に残し各職員に共有し、改善が必要な場合は速やかに改善できるように心がけています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談のほか日常的に意見交換が出来るように心がけています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、計画作成担当者には年2回人事考課を実施しています。また昇給、ベースアップなどの給与水準の見直しなども行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己チェックシートによる課題発見、Eラーニングによる研修を行い、職場でのOJTへと繋げています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の管理者会議やなどに参加し情報交換、収集を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の声を傾聴し、その方のニーズに沿ったケアの実践が出来るように努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にこれまでの生活歴を把握し、家族様の希望を伺った上で暫定プランを立て、1か月を目途にその内容を見直すようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内では家庭的な雰囲気与生活して頂けるように気を配っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からのご意見、ご要望を大切に改善が必要な場合は入居者様にとって快適な生活が出来るように見直しを行っていきます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様やご家族様が繋げていきたい関係、関係を切りたくないなどその意向に添うように協力していきます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごされる時間も大切にしながら居室に籠らないように食事の時間以外におやつ時間など入居者様同士話せるように話題提供などをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて情報提供をおこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にまた本人に確認できない場合はご家族様に意向等確認しその人らしい生活を送れるように努めます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式やご家族様、各関係機関に生活歴を確認し安心して生活できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態を把握し、残存機能を維持しながらできるだけ活動的な暮らしができるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様のニーズを重視し、課題分析繰り返しながら介護計画の作成に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務前に介護記録、送りノートの確認することを心掛け入居者様の様子や状態の変化等を共有して勤務に入るようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様の声を大切にし、必要に応じてサービスの見直しを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会などと連携をして地域ボランティアなどの実情を把握し、行事や日常生活での活用に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期訪問診療や看護師相談で健康状態把握に努め状況に変化があった時には連絡をとれるように関係を密にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の看護師相談の時に気になる点があれば相談、アドバイスをもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には入院前の生活の情報提供入院中は主治医からの治療説明の時に同席し退院後安心して生活できるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合についての指針の同意を得ています。施設、病院、ご家族様と連携し安心した終末期に向けた取り組みが出来るように心掛けています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や救急搬送がすぐできるように		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を行っている。年に1回1階のディサービスと合同避難訓練を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるという気持ちを忘れずにその方の尊厳を尊重しながら対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者主導とならないように本人の希望が尊重されるような声掛けを行うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課がありますがその方の希望に沿った生活を送れるように配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に好きな服を選んでもらったり同じ服にならないように声掛けを行う男性には髭剃りをできるように声掛け物品の充電等を行う。		

ふれあいの里グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食後に食器拭きや、おぼん拭きをお願いしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を管理し摂取量が少な場合声掛けで促したり、好みのもを提供したり、栄養補助食品で補食したりしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、ご自身で出来ない場合は職員の介助で行います。歯科医師の助言を得て、計画に基づいたケアに努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた介助を行っています。過剰にならないように自立支援に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服だけではなくいきめない方には腹部マッサージを行うなど快適に排便があるように心がけています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日の日課で入浴時間が決められおり大幅に時間を変更しての入浴は難しいですが希望があれば順番等調整し気持ちよく入浴できるように配慮します。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理のない生活をして頂くために、適宜休息をとれるようにしています。昼夜逆転しないように声かけし夜間も良眠できるよう配慮します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を毎回ファイリングし必要に応じて確認できるようにしています。薬の変更があった場合には情報を共有出来るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様の協力を得ながら、生活歴を把握しながら楽しく暮らせるようにしています。役割を持つことによって生きがいを見出せるようにしています。		

ふれあいの里グループホーム日翔館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬季は感染症等がある為外出機会が減りますが雪が解けてから近くの公園やご家族様に協力を得てご本人の行きたいところに外出出来るようにお願いしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所では金銭の所持を基本的に行っていません必要な場合立替で対応します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきや便箋を購入しご本人の書きたいときに書いていただき職員が代わりに郵便ポスト投函したり電話をかけたいと訴えられたときは電話のやり取りが出来るようにします。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な空間になるように刺激や違和感を持つような現象を排除できるようにします。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファの位置や窓から外を眺められるように椅子を置いたりし空間を自由に使えるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際に新しいものを買替えるのではなく使い慣れたなじみのものを持参して頂き、早く生活に慣れて落ち着いて過ごすことができるように家族様にお話しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を大切にし、その方の残存機能を活かした生活が出来るように心がけています。		